

#### 4. 昭和49年岩手県沿岸の海況、漁況異変

岩 間 宝 作 (岩手県水産試験場)

##### 1. 海況異変

- 1) 2月、親潮第1分枝表面～100m層水温1～2℃台、塩分33.5～32.8%の低温、低かん水帯が、本県沿岸～浅海に強く接岸した。この冷水帯の規模は本県沿岸で東西50～60海里以上にも及び、昭和38年を上廻る規模の異常低温現象を呈した。この冷水帯は浅海では2月15日～2月19日にかけて接近し、8日～12日間とくに強く接岸した。
- 2) 冷水帯が浅海に接岸していたとみられる2月上旬～3月中旬にかけて、沿岸各地の漁港内および湾奥で海水の結氷現象が散見された。これは冷水の強い影響と同時に近年まれにみる豪雪等、気象条件による要因が重なったためと思われる。
- 3) 浅海では3月中旬～4月、水温3～8℃で厄水の発生をみた。また、4月17日～19日(地先定線観測)、距岸20～30海里、表面水温1～2℃台を中心とした海域は濃厚な厄水状を呈していた。

##### 2. 漁況異変

- 1) 冷水帯の接近または接岸による魚介類等の異常へい死(仮死)現象は、2月11日～3月2日にかけて釜石湾、大槌湾を中心に、県北黒崎地先～県南端広田湾の主に浅海(ワカメ漁場)で、タナゴ、ウマズラハギ、アジ、カタクチイワシ、アナゴ等19魚種(報告、確認74件)にのぼっているが、これ等の報告を総合すると、タナゴ等は小型のものに多く、その他、ウマズラハギ、カガミダイ、アナゴでみるように行動の鈍い魚種に多くみられた。また、一部の地先では天然アワビ(成、稚貝)のへい死(仮死)がみられた外、養殖ワカメ、ホタテの成長にも大きな影響を与えていたことが報告されている。
- 2) 冷水帯の接近～接岸時を中心に、カレイ等磯付魚、カタクチイワシに逃避行動がみられた。即ち、大船渡湾内でカタクチイワシの密集がみられ、また、広田湾、大船渡湾付近で磯付魚の浅所への移動、密集がみられ、磯刺網漁業が好漁したという情報がある。
- 3) 温水性魚類のうち、マサバ、メジは例年並みの接岸がみられ終始好調な漁況で経過したが、カタクチイワシ、マイワシ、ブリ、イカナゴ(シラス)、等は来遊接岸が例年より大巾に遅れ、漁況も全般に不振である。一方、冷水性魚類はスケトウタラが漁期間を通し好漁を呈した反面、サケ、マス類は極端な冷水のため低調だった。
- 4) 沿岸各地先でアミ類の濃厚群が来岸した。